

令和4年度 第2回一宮市男女共同参画推進懇話会 議事録（要旨）

日時 令和4年10月13日（木）14:00～15:15

場所 本庁舎11階 1101・1102 別会議室

出席者 9名

欠席者 4名

傍聴者 0人

議題

- ・第3次一宮市男女共同参画計画改定に向けて【資料1】

その他

- ・審議会等委員への女性登用率の修正について【資料2】
- ・「性別を理由にモヤっとした言葉」応募結果について
- ・懇話会委員の任期満了について

【議事録】※発言順

議題 第3次一宮市男女共同参画計画改定に向けて	
懇話会委員意見	事務局の回答
<p>（成果指標の達成状況について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果が成果指標となっているもののうち「停滞」「悪化」となっている項目は、社会や家庭での不平等感の増、理想の考え方と現実とのギャップに苦しむ女性のモヤモヤ感が結果として表れていると考えられるため、コロナ禍におけるここ数年の数値の上下には一喜一憂しないほうがよいと思う。 	
<p>（職場における性別等の課題について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会全体において男女の地位が平等と感じている人の割合」という質問は男女双方へのアンケート結果であるということによいか。 ・現計画の指標に「消防吏員の女性人数」とあるが、「市立保育園の男性保育士の人数」を指標とするのはどうか。 ・男女問わず、職場におけるマイノリティは環境面から人間関係まで大変なことや苦勞があり、言えない辛さもあると思う。共働きについても扶養や税の関係などにより思う存分働けない人たちがいる。思っても言えない、一歩踏み出せない、その理由をさぐったり、情報収集することが大切ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りである。 ・次期計画の指標の参考とさせていただく。

懇話会委員意見	事務局の回答
<p>(防災への取組について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や県の計画にも入っている防災への取組を、市としても重点を置き、女性の視点を取り入れるべき。 ・避難所生活は家庭生活の延長上であるため、アンコンシャスバイアスを意識して、行政として、住民に啓発することは大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点課題として挙げているが、防災に関する施策を排除するというではない。
<p>(デジタル社会への対応について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的にはどういうことか。 デジタル化に際しては、高齢者への対応も必要かと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国県が推進しているように、女子学生が理工系を選択しやすいよう働きかけることや、就職支援の一つとしてデジタル分野のスキルアップを後押しすることなどが考えられるが、現段階では具体的に決まっていない。
<p>(次期計画の策定について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期計画策定のスケジュールを教えてほしい。 ・すべての政策について男女共同参画の視点を入れ込むことが重要だが、一宮市としてはどのように他課への働きかけをしていくか。 ・市の管理職層への研修は考えているか。 職員一人一人の意識の高まりが、政策に反映するものと考えため、ぜひ検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は未定。現計画策定時は、市民へアンケート、懇話会（3回）の実施、パブリックコメントによる市民への意見募集を行っており、同様の流れを予定している。 ・各課の事業において男女共同参画の視点での関わりを検討するよう、全庁的に調査しつつ、当課からも提案しながら計画に位置付ける事業を精査したいと考えている。 ・現段階では管理職向けの男女共同参画に関する研修は行っていない。今後の参考にさせていただく。

懇話会委員意見	事務局の回答
<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から市立中学校の制服が変わり、女子生徒がズボンを選択できるようになったが、ズボンを選択した生徒の割合はどのくらいか。親世代の意見により、子どもたちが自由な選択の妨げにならないことを願う。 	<p>【本質問には会議の場では答えられず、本議事録にて回答】</p> <p>正確な調査は行っていないが、新制服の購入状況から、女子生徒の約9%が新制服のズボンまたはキュロットを選択していると推察。</p>
<p>(デジタル社会への対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会のデジタル化は、いたるところで進んでいるが、女性に限らず、それらを利用する老若男女全ての人がスキルアップする必要があると感じる。取組の中に、誰もがデジタルスキルを得られる機会を加えてほしい。 	
<p>(固定的役割分担意識について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護は女性の仕事」という感覚は年齢層が高い人の方が強いと感じる。表面的ではなく、男女共同参画について掘り下げて理解しようとする意識すら低いため、そこを変えていく必要がある。 ・理解はしているが、これまでの人生を否定されてしまう感覚を持つ人も多いのではないか。そういった市民への働きかけも行政が上手く行うことができるとよいと思う。 	
<p>(女性に対する暴力の解決について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な解決方法を教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者に対して積極的に関わることはできないため、市ができることは限られるが、公的な避難場所の確保や民間との連携支援を行っている。

その他	
審議会等委員への女性登用率の修正について	
懇話会委員意見	事務局の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防吏員の女性人数が成果指標を達成できたので、職員委員会にも登用できるよう頑張してほしい。 	
「性別を理由にモヤっとした言葉」応募結果について	
<p>昨年度までの「標語」に代え、今年度初めてのテーマで募集。応募総数 127 点。児童生徒の気持ちに配慮し、学校を介さない応募方法を推奨したが、応募数が減ってしまったため、来年度以降は募集内容や応募方法について検討が必要と考えている。応募作品の一部を啓発用カレンダーに掲載予定。全作品はウェブサイト掲載予定。</p>	
懇話会委員意見	事務局の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度までの標語は学校で提出させ、選定もしていたのか。学校への提出ではなく、個人での電子申請を主としたこと応募数が減る大きな要因ではないか。 ・ 今年度限りの募集か。 ・ 応募者の年齢や性別の割合どうか。デジタル媒体を持っているかどうかデジタルの応募に影響してくると思うので、年齢別性別の割合が分かれば教えてほしい。今後の検証に役立つのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校に提出してもらい、まとめて送付してもらっていた。選定は依頼していない。 ・ 来年度以降は内容、応募方法含め未定。 <p>【本質問には会議の場では答えられず、本議事録にて回答】 電子申請の割合は小学生で 50%前後、中学生では 80%前後。学年による大差はなく、性別は記載欄がないため不明。</p>